

ではないかと思えます。私からは以上です。

ディスカッション

○座長 ありがとうございます。大変素晴らしいコメントをいただきました。ここでジャック・ホウ先生の総括的な質問をお受けする予定でしたが、取りあえずここで切ります。ただいまのコメントについて、全部お答えになると、また大変ですから、各自選択していただいて、1問か2問に対して各自2分以内でお答えいただければと思います。

それでは最初に呉先生から、お二人のコメントないし、質問に対するお答えをお願いしたいと思います。

○呉 好、非常感谢刚才两位教授的点评，我简单回答一下。关于川井伸一教授的问题，关于宝钢的案例没有时间讲，就不讲了。宝钢是从日本引进当时造成很大争议的项目，但是现在来看做得非常不错，这个 catching-up 一个很典型的案例。第二个中国的技术在全球在海外确实是有一些很多的负面的评价，目前来看的话，确实是。这是作为后进国家在追赶当中，必然面临的一个问题，相当的技术通过模仿来获取，其中还有很重要的一个我们在模仿当中的学习和创造，这个我认为关键。从我们的研究来看，跟春利教授的问题可以结合起来讲，就是跟原始创新和集成创新的这样一些区别和联系，可以看得有非常多的联系。中国研发人员的总人数目前在全球已经上升的非常快，初步统计现在在全世界大概占第二位。研发的投入这个总量增长也非常快，在模仿和学习的过程中，加大我们自主的研发，我认为这是成功的非常重要的一个途径。我们应该说，刚才川井伸一教授讲到，恐怕中国的 catching-up 还不是一个主要的阶段，没有进入到这个阶段。这个我们有不同的看法，我认为中国一直在 catching-up，在 catching-up 这个过程上又非常不一样，现在来看的话，真正做一流的研究机构和人员里面，可以说是越来越多，我们对此还是充满信心的，我简单就回答到这里。

○座長 それではルー・ディン先生、お願いします。

○ルー・ディン 首先谢谢两位教授的指教，那么我简单的回答一下川井先生讲的正负面的影响，农民工流动方面的正负面的影响。我这个里面主要的论点是这样，农民工如果能够进城也能够移民，到城市里面成为城市化的居民，他们也可以到发达的地区去移民，成为发达地区的居民，那么这样的话他们就不光是本身的农民工流出去，而且他们的被抚养的人口当中，老幼也跟他们一起移民出去，那么这样对发达地区和穷苦地区之间收入均等化的效应就更强。最糟糕的话就是一种菲律宾式的安排，那么就是由外出的流动人口一直是流动在外面，他们最有生产力的年龄在外面，但是老了以后又回到原来的地方。尽管菲律宾他们的汇款，相当于他们 GDP10%这样高的比例，但是菲律宾在经济上就一直没能摆脱落后的地位。恐怕中国这个贫困地区是需要，教训是需要吸取的，我就提出了这些建议也就是说川井先生也有了相同之处，国内的区域之间的合作，要素的流动也应该包括移民的部分，谢谢。

○座長 ありがとうございます。では巖先生、お願いします。

○巖 まず川井先生の私に対するコメント、評価について、私の言いたいことをすべて理解してくださっていますので、大変感謝しています。

質問された何点かに対して、ここでお答えする時間はありません。関心のある方は、近く日本経済新聞社から共著が出ます。そのなかには中国の農業の基本問題について詳しく述べてあります。都市問題等も入っておりますので、こちらをご覧ください。

私は農業経済のほかに、いわゆる開発経済学も扱っています。ここで少し呉先生に対する質問について、若干自分の考えを述べさせていただきます。

いわゆる中国の模倣、外国製品の模倣や偽物の生産という問題が、けっこう議論されていますが、開発経済学の観点からしますと、いわゆる後

発者の利益というものがあります。それをうまく吸収し、経済発展に生かすことができるならば、非常にいいことです。中国はそうやっています。このような吸収、模倣をしたくてもできない国はたくさんあります。中国の悪いところは、模倣して成功してしまったことです。成功してしまったことは、アメリカ、日本など先進国に脅威を与えてしまったということなのです。

ただし、このような状況がずっと存続するとは思いません。つまり、キャッチアップした後に、おそらく最先端の研究をおこなうということです。もしそのような問題だとすると、高度成長期の日本、あるいはその後の韓国、台湾もやっていたと思います。中国の運が悪かったのは、1990年代以後、知的所有権の保護云々が高まったなかで非常に注目されただけなのです。

ですから、私は特に問題にしておりません。問題なのは、このような状況です。おそらく、これから模倣して先端に追いついた後に、次のステップに進んでいくだろうと思っています。やや門外漢的な発想ですが、ご参考までに。

○座長 ありがとうございます。

○高橋 それでは私が先にやります。川井先生と李先生のコメントは、ごもっともなコメントです。私の考えでは、中国もいずれは古いかたちの協同組合ではなく、新しい市場経済に対応した協同組合運動が必ず起きてくると思っています。どこの国を見ましても、発展途上から先進国へ移行するときに、この種の運動が起きてきます。その特徴は、草の根の社会運動です。

私が注目するのは、社会運動の自由の保障がなければ、本来の意味での資源の配分の自由化、あるいは効率は生まれません。したがって、どの社会でもこの経験をもとにして、社会の生産機構あるいは所得の再分配機能の調整を図っているのが歴史の教訓です。その意味で、中国もいずれはこれを痛感しなければならないでしょう。そのために運動の自由をいかにして保障できるのか、この点について述べたつもりです。

そのために、昨年できました法律をどのように評価するのか、あるいはその後の実態をどう評価するかです。確かに李先生がおっしゃるように、かたちは立派でも中身が違うという例は見られ

ます。例えば、いくつかできている專業合作社のなかにも、いわゆる農業龍頭企業が衣を着て、形だけを專業合作社にして何らかの利益を得るところがずいぶんあります。

それも1つは経験です。私がヨーロッパの社会経済に注目する理由は、まさにスムーズにいくものはすべてなしということで、何らかの多様な経験を踏まえながら、そこに雑種、純正、さまざまなものが生まれてくると思っています。しかし、その種の経験をしなければ、次のステップにはいれないと思っています。そのために、協同組合が手段となる可能性が大にあるということをお願いしたいと思います。

○田中 田中です。川井先生、李先生ともに、大変貴重なコメントをいただきまして、どうもありがとうございました。

お二人とも共通でご指摘いただいたのは、中国企業の成長のパターンはどの段階の話なのか、あるいはどれぐらいの期間で見えるのかという点に関して、今後変化するかもしれませんし、それは確かに両先生がおっしゃるとおりだと思います。また、私も別に中国の技術力の高度化を否定するものではありません。

ただ、この報告で特に申し上げたかったのは、成長のパターン、参入のパターンが、中国の経験以前にはなかったという、まったく新しいものを提示したということをお願いしたいと思います。

つまり、今までの議論ですと、先進国のメーカーと途上国のメーカーには非常に大きな技術力の差があり、途上国のメーカーは何とかキャッチアップしないとやっていけないという論調が多かったわけです。そうではなくて、別のやり方で組み立てや販売だけで先進国のメーカーと競争することもできるという新しいやり方を提示したところに、現在の途上国にとって価値があるのではないかと、特に言いたかったわけです。以上です。

○座長 では山本先生、お願いします。

○山本 まず川井先生のコメントですが、このような比較から中国のインプリケーションは何かということですが、NIEsの経済発展の経験を見てみますと、経済が発展していくにしたがい産

業構造、就業構造が、第1次から第2次、第3次産業へとうまく転換してきているわけです。

ところが、現在の中国を見てみますと、第2次産業の工業部門が異常に突出しています。これまでにどこの国でも見られないような構造になっています。就業構造は、農業が多くを占めているという状況です。そのようなことから、これからは産業の高度化を進めなければいけないということと、サービス部門の雇用も整備して、充実していかなければいけないのではないかとということが、1つは言えるのではないかと思います。

もう1点、政府の役割で、かつてNIEsや後発のASEAN諸国は、いわゆる開発主義ということで、政府が全面的に市場に介入することによって成功を遂げてきたわけです。経済発展の初期の段階では、これは非常に妥当な戦略だと思います。

現在、世界的な金融危機が発生しているなかで、また政府と市場の問題が浮かび上がってきているわけです。これは政府の役割が、小さい政府か、大きな政府かということではなく、政府と市場は相互に補完しないといけないと思います。今度、新しくアメリカの大統領になるオバマ氏は、「smart and effective government」という言葉を使っています。大小にかかわらず賢明な政府

の在り方を模索していく必要があるのではないのでしょうか。

それから、李先生が指摘したグロスと1人当たりのCO₂の排出ですが、もう1つは私のペーパーの表6の最後に、2005年1人当たりのGDPのPPP (Purchasing Power Parity) 換算があります。

今、このようないろいろな計算方法を議論する場合に、公定為替レートによる場合と、PPPという各国の経済の物価水準を反映した実勢に近いレートで議論する場合があります。最近は、貧困の格差や所得格差の国間の比較は、必ず全部PPPを使っています。

これによりますと、例えばPPPで、2005年の1人当たりGDPを見ますと、中国が1.0で、日本が0.3です。インドは0.6で、中国とインドは既に日本を上回っているということで、このPPPも新たに勘案して議論していったらどうかと思います。以上です。

○座長 ありがとうございます。時間がなくてコメントに対する十分な回答ができませんでしたが、ジャック・ホウ先生に総括的な質問ないしはコメントを、できれば10分以内でお願いしたいと思います。

コメント

Jack w. Hou (カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)

好，我尽量。首先跟各位道歉一下，因为服装不整，我当初不知道我需要坐上面，我根本没认出这个是我，等到我发现我要上来的时候领带来不及打，所以先跟各位道歉，服装不太整，更糟糕的是，我本来还不知道我要做评论人，我是到了这才发现，不过话又说回来，反正多数paper是日文我看也看不懂，我主要是听各位的报告，然后引发我一些联想，我们就这样子讨论，我就依着发言者的顺序讨论一下我的一些感想，等等。譬如说吴老师，讨论新古典学派的生产之外，还有其他的東西需要考量，这个我是绝对同意，昨天下午，我们在各个小组大致做一些事前报告的时候，我就有这个感想，

我们看经济开发，我是比较习惯叫经济发展，不管你是看经济开发还是经济发展，如果要有一个比较落实的方法看的话，就是要看食、衣、住、行、娱乐这几个阶段来看。那中国80年代是食、衣的经济发展。食，吃饱，穿得暖的经济发展，可是你一旦到了住跟行的阶段的这个时候，贫富不均，就慢慢凸显出来了。所以我是觉得这个也是新古典学派以外一个比较不同的看法。那么吴老师也提到腐败的这个因素，昨天我们也大致提到了这个，这个我是非常同意，如果你看印度跟中国，依据世界三大腐败指标，印度与中国是一模一样，同一个等级的腐败。但是我的一位老师提出，他说有差别，他说